

大学 本学初の専門職大学院「福祉医療マネジメント研究科」設置認可へ



9月4日、本学大学院6つ目となる研究科「福祉医療マネジメント研究科」の設置が文部科学省より認可されました。

本研究科は本学初の専門職大学院となり、「福祉医療マネジメント修士(専門職)」の学位取得が可能となります。「経営学」を軸に組織マネジメントや人材育成に関する学びを提供し、福祉医療組織の効率的運用と革新的サービスを創造する人材の育成を図っていきます。

本学は今後、福祉医療業界が直面している様々な社会的課題を考え、経営的視点を学ぶ機会を用意することで、日本をはじめ世界の福祉医療分野の発展に寄与することを目指していきます。

大学 保健医療科学研究科生2名が「JACLaS Award 2023 優秀演題賞(大学院生部門)」受賞

10月6日～8日、「日本医療検査科学会第55回大会」がパシフィコ横浜で開催され、本学の大学院保健医療科学研究科・微生物研究室(指導教員:古谷信彦教授、眞野容子准教授・臨床検査学科長)に所属する伊藤由将さんと小林大幹さんがそれぞれ、「JACLaS Award 2023 優秀演題賞(大学院生部門)」を受賞しました。

JACLaS Awardは、一般社団法人日本臨床検査機器・試薬・システム振興協会(JACLaS)により創設されたもので、一般社団法人日本医療検査科学会(JCLS)において広く臨床検査関連大学の大学院・学部生演題を募集し、その中から優秀演題賞として贈られる賞です。

今回、優秀演題賞(大学院生部門)受賞者4名のうち、2名が本学保健医療科学研究科生の受賞となりました。

伊藤さん、小林さんからのコメントを以下に掲載します。



伊藤さん(左)・小林さん(中央)・眞野准教授(右)

受賞コメント

伊藤由将

【受賞演題名】『褥瘡感染症起因菌における非ステロイド性抗炎症薬の影響』
受賞できたことを大変光栄に思います。大学院に入学してから地道に研究を行ってきた結果が実り、喜びで胸がいっぱいです。この賞を受賞することができたのは自分一人の力ではなく、ご指導くださった先生方、支えてくれた家族、研究を共にする仲間の皆様のお陰であると思います。この賞を励みに、今後も精進し信頼される臨床検査技師になりたいと思います。

小林大幹

【受賞演題名】『キノロン耐性Acinetobacter baumanniiとgyrA変異の関連性の検討』
受賞連絡を頂戴した際には、驚き、何度も読み返しました。徐々に嬉しさが込み上げ、ご指導くださった先生方や研究室の仲間と受賞の喜びを共有しました。多くの方のご協力があったこそ、この賞をいただくことができたと思い、皆様に感謝しております。これを糧に、文京学院大学大学院の看板を掲げ、社会人としても精進していきたいと思っています。

中学 チアダンス部 関東予選大会で「5位入賞」

9月16日、「第23回全日本チアダンス選手権大会関東予選」が千葉ポートアリーナで開催され、本校チアダンス部の中学生26名が出場しました。生徒たちは日々体幹強化やトレーニングを重ね、大会当日はチームが一丸となって練習の成果を発揮しました。

全国大会進出は叶いませんでしたが、昨年より順位を上げて「第5位」に入賞し、演技の得点に応じて授与されるリボンの色も昨年より1ランク上の青色を受け取ることができました。しかし、結果を喜びながらもチームとしての課題が浮き彫りになった大会でもありました。

この大会で得た多くのものを次の大会に向けての励みとし、今後も日々の練習を大事にしながら、高い目標に向かって頑張っていきます。



チーム一丸となって演技を行った生徒たち

高校 サッカー部 東京予選「ベスト8」

8月22日から「第32回全日本高等学校女子サッカー選手権大会東京予選」が開幕し、本校の高校サッカー部が「ベスト8」に入りました。

3回戦までは完封試合で順調に勝ち進み、迎えた準々決勝では昨年の同大会の3位決定戦で死闘を繰り広げた杉並総合高校と再び対戦。鉄壁のDF陣を擁する本校は、闘志溢れるプレーで相手の攻撃を再三防ぎましたが、後半、不運にもペナルティエリア内でボールが手に当たってしまい、ファール判定となりました。結果的にPKを決められ、それが決勝点となり0-1で敗退、「ベスト8」で大会を終えました。

惜しくもベスト4進出はなりませんが、ここ最近で最も激しい大接戦で、心打たれる試合でした。応援に来てくださった保護者・卒業生からは、泣き崩れる選手たちに健闘を称える拍手が最後まで送られました。



白熱の試合を繰り広げた生徒たち

GREEN SPIRITS



文京学院で成すべきこと

高等学校教頭
石井 淳

ハイサイ!グスーヨーチューウガナピラ。ワンネー石井淳やイビーン。ユタサルグトウウニゲーサピラ。

これは「皆さんこんにちは!私は石井淳と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。」という沖縄方言でのご挨拶になります。私は昨年の9月に入職し、現在中高教諭として勤務しておりますが、以前は沖縄県に26年間在住していました。しかしながら私自身は生まれも育ちも文京区で、

この度ご縁があってこの地に戻って来たことは大変感慨深く、改めて身が引き締まる思いです。

教員として私の成すべきことは「平和で秩序あるグローバル社会の構築に貢献する教養人の育成」だと考えています。これは単に英語を話し海外経験があることだけではなく、自国の文化を理解し発信する力と、文化や当たり前の違いを乗り越える力の習得を意味しています。本校が取り組む茶華道や運針・ペン習字などの「伝統教育」は正にこれに当たり、併せてアオバジャパン・インターナショナルスクール(以下、A-JIS)との教育提携により、日常的な異文化体験ができる本校の教育環境は、グローバル社会で活躍する教養人の素地を醸成する最適解だといえます。

真の教養人にとって、知識は勿論のこと、論理的思考力と批判的思考力も不可欠です。これらは自らの疑問を

主体的に追求し、答えのない問いを考え抜く経験を積み重ねることで涵養されます。必修となっている探究活動は「探究的な学び」を通してこの力を育むだけでなく、「自立した学習者」としての根幹の育成に寄与していることは言うまでもありません。

また、これは世界標準の教育カリキュラムであるIB(国際バカロレア)が求める力でもあり、そのIB認定校であるA-JISとの教育提携は、本校の取り組みにIB的なエッセンスが加えられる可能性を示唆するとともに、教育プログラムが大きくアップデートされることにも期待を寄せているところです。

昨今、グローバルと探究を標榜する学校は数多ありますが、本校の教育こそが社会の求める教育需要を満たしていると信じて疑いません。今後も私自身が成すべきことに向かい邁進していく所存です。

大学 本郷・ふじみ野キャンパス合同スポーツ大会実施

9月30日、本学の学生自治会(本郷)・学生会(ふじみ野)主催によるスポーツ大会がふじみ野キャンパス体育館で実施され、協定校の東洋学園大学からも参加者を迎えました。

本イベントは、30kmウォーキングの代替案として、本学の学生が主体となり企画されたもので、学生自治会と学生会の交流イベントとしては初開催となりました。

当日は学生35名(本学29名・東洋学園大学6名)が参加し、学生自治会の志川大季さん(経営学部3年)の司会のもと、本郷グループ4チーム、ふじみ野グループ1チーム、東洋学園大学1チームの計6チームに分かれて競技を行いました。学生たちは、バレーボール、得意競技リレー、バスケットボール、綱引き、動く玉入れ、借り物競争の計6競技で汗を流し、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。今回、東洋学園大学との交流が初めての学生会にとっても大変刺激の多いスポーツイベントとなりました。

学生コメント

学生自治会本部 会長 加藤大和(経営学部3年)

伝統ある30kmウォーキングの代わりとして今回のスポーツ大会を開催しました。はじめての企画で不安も大きかったのですが、ふじみ野キャンパスの学生会と協力したことで、スムーズな運営ができました。今年の経験を次の学年に繋げ、来年以降は更に大きな規模で開催できたらと思います。

学生会本部 会計 高木彩華(人間学部2年)／松尾千里(同)

飲物やお弁当、熱中症対策グッズを準備して、参加者の負担を減らせるように努力しました。初めての開催で、タイムスケジュールや司会進行など正確に進むか不安でした。しかし、学生自治会の協力もあって、トラブルなく無事に開催することができました。東洋学園大学と初めて交流ができ、大会も大いに盛り上がり、良い経験になりました。

＜ PHOTO GALLERY ＞ フォトギャラリー



大学 経営学部生「夜のパン屋さん」×売れ残りパンの再販売でフードロス削減へ

9月19日・21日の2日間、経営学部馬渡一浩教授のゼミナールに所属する3年生6名によるフードロス削減の取り組みとして、「夜のパン屋さん」がまちラボ本郷前で実施されました。

「夜のパン屋さん」は、複数の店舗から営業時間内に売り切れなかったパンを預かり、まとめて販売することでパンのロスを減らす取り組みで、2020年よりビッグイシュー日本が開始しました。馬渡ゼミ・ブルーム班では、「パンの廃棄を減らすためにできること」をテーマに研究を進めており、文京区付近で実施されている「夜のパン屋さん」の活動を知り、取材・研究を重ねてきました。そして、本活動がフードロス削減に繋がるだけでなく、物価高騰による経済困窮や人材活用の対策など、さまざまな利点に繋がることを理解し、学生たちの参加意欲も高まり、今回本学内でも実施することになりました。

販売当日は、「夜のパン屋さん」で通常販売しているパンに加えて、学生たち自ら交渉を行い契約できた1店舗のパンがラインナップされました。両日とも、多くの学生・教職員や近隣住民の方が来店し、パンは完売。2日間の売上金57,340円は、「夜のパン屋さん」を通して、各店舗へ支払われます。実際に購入された方々には「美味しいパンが普段より安く買えた!」と好評で、短い期間ながらも大変盛り上がりました。

学生コメント

山本瑠奈(経営学部3年)

再販売活動に取り組んでいる「夜のパン屋さん」にご協力をいただき、活動の認知・利用者の拡大、継続的なパンの廃棄量削減を最終目標に研究をしました。当日は、大学関係者だけではなく、通りがかりの一般の方にも購入していただくことができました。パンは短時間で完売。利用者からは「また買いたい」という反応が多く、大学での出店は大成功でした。今後は他大学でも出店を行うことを目標に活動をしていきます。



馬渡ゼミブルーム班の学生6名

行列のできた「夜のパン屋さん」

大学 「文京学院大学・淑徳大学共催公開講座2023」開催

9月30日、「文京学院大学・淑徳大学共催公開講座2023」が淑徳大学埼玉キャンパス(三芳町)で開催されました。今年度は「心と身体:ハッピーエイジング」というテーマで、前半は淑徳大学教育学部こども教育学科の齋藤京子准教授による「今日からできる笑顔と身体づくり」についての講演、そして後半は本学人間学部心理学科の東知幸准教授が「人生の棚おろしワークショップ」を行いました。

ワークショップでは、主に70～80代の参加者30名がこれまでの人生を振り返り、その浮き沈みを人生グラフとして描き、それをもとに一人ずつグループ内で発表していきました。今回は4年ぶりの対面開催となりましたが、皆さん熱心に他の参加者と人生について語り合い、大盛況の講座となりました。



ワークショップ開催の様子

大学 TJUP公開講座×BGUウィークエンドフォーラム「毎日楽しく介護予防Part.3～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～」開催

9月30日、ふじみ野キャンパスをメイン会場に、7か所のサテライト会場とオンライン参加者をつないで、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)地域交流委員会公開講座&文京学院大学ウィークエンドフォーラム「毎日楽しく介護予防Part.3～筋トレ・ロトレ・脳トレのススメ～」が開催されました。

当日は、十文字学園女子大学人間生活学部食物栄養学科古明地夕佳准教授と、本学の保健医療技術学部作業療法学科國重雅史助教が講師として登壇しました。前半の古明地准教授によるミニ栄養講座の後、本学の國重助教の介護予防についての講座が始まり、作業療法学科の栗城洋平助教、関川陽平助手と4年生8名のデモンストレーションで、各会場の参加者が楽しく頭と身体を動かしながら介護予防トレーニングを体験しました。対面、オンライン、サテライト7会場を合わせて約200名の方が参加し、充実した公開講座となりました。



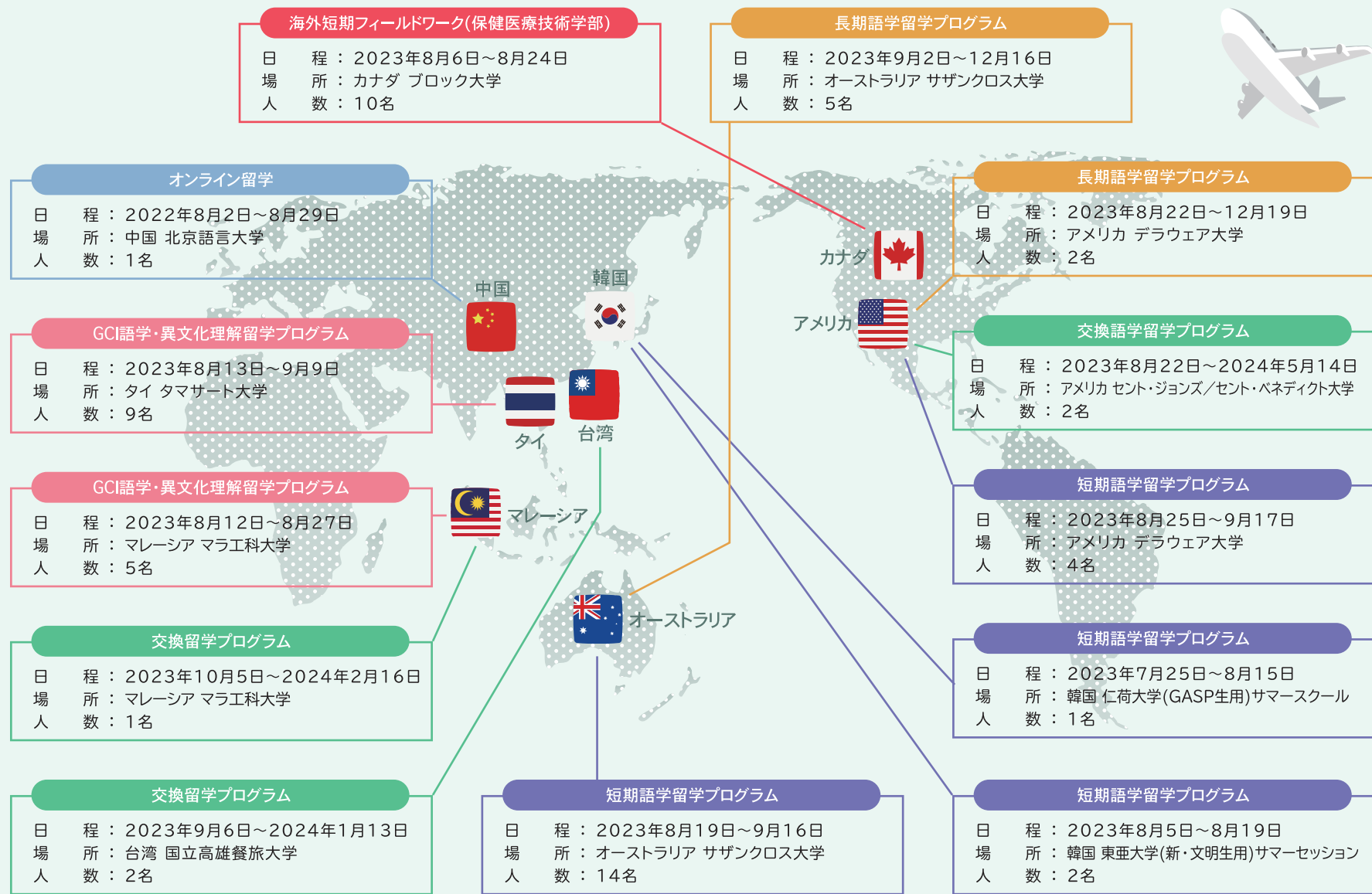
國重助教(右)、関川助手(左)、栗城助教(左から2番目)と4年生のサポート学生



介護予防トレーニングで身体を動かす参加者

大学 留学特集

今夏、8か国への海外留学プログラムが実施され、合計58名の学生が各国の提携先大学に出身しました(オンライン留学含む)。各種プログラムの訪問国や大学、出発人数などを一覧でご紹介していきます。



大学 京都の老舗旅館でインターンシップ実施

8月16日～24日、京都府の老舗旅館「京の宿 北海館 お花坊」でのインターンシップが実施され、外国語学部の学生2名が参加しました。本インターンシップは、社会人基礎力の向上および旅館業を通しての基礎知識・能力を養うことを目的とし、フロントでのチェックイン・アウト業務、客室での接客・清掃、食事の配膳・片付けなど、参加した学生たちは旅館業における多岐に渡る業務に携わりました。また、京都は外国人に人気の観光地であることから、海外からの宿泊客も数多く宿を訪れ、接客業務だけでなく、京都の街を英語で案内する場面にも立ち会うことができ、貴重な体験となりました。11月には今回のインターンシップに関する学内での報告会実施も予定されています。

参加した学生のコメントを以下に掲載します。

参加学生のコメント

浅賀由紀(外国語学部2年)
明田花織(同)

私たちは、京都にある「京の宿 北海館 お花坊」でのインターンシップに参加しました。インターンシップを通して学んだことは主に2つあります。1つ目は「伝統的な空間での異文化交流」です。まだ日本人の方しかいらっしゃらないかと想像していましたが、宿泊客の半数以上が海外から訪れており、インターンシップ期間中、旅館の方と一緒に海外からの宿泊客を連れて京都を案内しました。「古都のすばらしさ」や「歴史ある空間」について、慣れた様子で英語を使いながら案内している姿を見て、なぜ京都が人観で観光客の方が多いのかを知ることができました。2つ目は「旅館業のチームワーク」です。お花坊の皆さんは宿泊客のためにチーム一丸となって行動を起こしていました。女将さんをはじめ、お互いに感謝の気持ちを口に出して伝えることで醸成される日々のチームワークを肌で感じる事ができました。この経験を糧に、一つ一つの縁を大切に、今あることを当たり前だと思わず行動していきたいです。



宿関係者との集合写真



明田さん(左)と浅賀さん(右)

大学 マレーシア国民大学×保健医療技術学部 研修・相互交流プログラムを実施

9月4日～9月22日の3週間にわたり、マレーシア国民大学からの研修受け入れプログラムがふじみ野キャンパスや関係病院施設などで実施されました。本プログラムは、本学の海外短期フィールドワークの提携校であるマレーシア国民大学(UKM)の理学療法学科(PT)と作業療法学科(OT)との相互交流プログラムとなっています。

今年度は5名(PT4名、OT1名)の留学生を受入れました。1週目はPT・OTの教員による講義受講、2週目は急性期病院や大学病院、リハビリテーションセンター、小児デイサービス施設など5施設の見学、3週目は学部と大学院での授業参加や、学生との交流会が実施されました。1週目で学んだ講義内容が、2週目に、施設で活かされていることを実際に知り、彼らの言葉を借りればeye-opening toursだったようです。

最終日には、本学の学生と教職員が集まり、留学生による本プログラムから学んだ内容についての報告会が行われました。日本とマレーシアの病院や施設でのリハビリテーションの違いなど、素晴らしいプレゼンテーションが繰り広げられました。その後、保健医療技術学部の神作一実学部長・教授から修了証が授与され、留学生たちからは関係者に感謝の手紙とお菓子が渡されました。その場にいた学生、教職員全員がプログラムの終わりを名残惜しく感じるようなFarewell partyとなりました。



Farewell partyでの集合写真



本学の学生との交流会



理学療法の特別講義を受ける留学生たち

高校

大学

Atlantic Pacific Japan主催イベントに高校生・大学生が参加

7月31日～8月4日、岩手県釜石市で開催された「アトランティック・パシフィック 2023 グローバルリーダーズサミット」に、世界各地のインター校から約20名が集まり、本校の生徒2名(高2)と本学の学生2名も参加しました。

本イベントを主催する英国の一般社団法人Atlantic Pacific Japanと本校は教育提携をしており、開催地である釜石市と本学は包括協定を締結していて、東日本大震災以降深いつながりがあります。

本校生徒2名は、レスキューボート乗船やセーリング体験などのアクティビティ、応急処置や廃プラスチックの再利用などのワークショップを通して、海の安全や海洋環境、防災についてバイリンガルな環境で学びました。

また、本学の外国語学部の学生2名は同イベントの運営サポートインターンシップとして参加し、海外からの参加生の国内移動や海外インストラクター・スタッフと参加者のコミュニケーション面でのサポート、現地滞在中の生活面でのケアなどを行いました。

参加した本校の生徒および本学の学生コメントを以下に掲載します。

【高校】生徒コメント

上葵(2歳)・松尾結希乃(2梅)

水泳教室では、釜石市の水泳連盟の方が講師をしてくださり、地元の中学生と一緒に活動し、遭難した際の海での対応や、基本的な泳ぎ方を教えてもらいました。漁業体験では、実際にボートに乗り、リアス海岸である大槌湾や津波対策の防潮堤を見学すると共に、ホタテと鰯の養殖について漁師さんに説明していただきました。また、海に行くと砂を採集し、プラスチックの問題を体感して、皆でポスターを作りました。さらに、実際に自分で救命ボートを操縦し、海での遭難者を見つける方法を学び、海という揺れる場所で救命ボートを操縦しながらも効率よく、そして正確に遭難者を助ける難しさを身をもって理解しました。

5日間という短い期間でしたが、参加者全員が海のこと、震災のことを真面目に学び、自分達が何をこれからできるのかを考えていました。また、活動を通して言語の壁を超えた絆が生まれました。このイベントで学んだこと、そして出会った人全員を忘れません。

【大学】学生コメント

田村 心(外国語学部3年)・友金幸佑(同)

私たちは、イギリスの非営利団体であるAtlantic Pacific Japanが主催し、世界各国の10代の参加者たちが集まる今回のグローバルリーダーズサミットで、その参加者の交流・生活の手助けをするインターン生として参加しました。インターンでは海の環境保全に取り組む一環として、漁船に乗りホタテの養殖棚を見学、ペットボトルのキャップからコースターを作るワークショップにも参加し、環境保全に関する意識も養うことができました。また、コロナ禍で人との関わりが制限され、特に海外の人との関わりが制限されていた10代の参加者たちは、バックグラウンドや国籍の違いに不安な様子も見受けられました。そういう中で、自分には何ができるのか、常に参加者たちのことを考えながら行動することで、観察力やリーダーシップ、コミュニケーション力を身につけられたとても貴重な体験となりました。

＜ PHOTO GALLERY ＞
フォトギャラリー

大学

留学生が根津神社で「神輿担ぎ」を体験

9月16日～17日の2日間、江戸三大祭の一つと言われる「根津神社例大祭」に先駆けて「神賑行事」が行われ、本学の「国際連携教育プログラム」で学ぶ留学生26名が参加しました。

同プログラムの授業の一環で、留学生たちは地元宮本町会の方々から神輿担ぎの指南を受け、掛け声も勇ましく根津神社とその界隈を練り歩きました。島田輝子名誉学院長、島田昌和学院長・理事長をはじめ、本学関係者が留学生たちの勇ましい姿を見守りました。

神輿担ぎを体験した留学生たちからは「重たくて大変だったがそれ以上に楽しかった」「観光では味わえない日本ならではの貴重な体験ができた」など、初体験を喜ぶ声が聞かれました。



法被姿で根津神社周辺を練り歩く留学生



神輿を率いる先導提灯

中高

文京アカデミー「子どもアカデミア」本校で3講座を実施

今夏、公益財団法人文京アカデミー主催の文京アカデミア講座「子どもアカデミア」が本校を含む文京区内の6会場で実施されました。本講座は、子どもの感性・知識を成長させることを目的とした文京区内在住・在学の小中学生対象の公開講座です。

本校では、7月24日に「英語でオリジナルボードゲームを作ろう!」(中川由美子教諭)、7月29日に「立体地図をつくってみよう」(水上俊子教諭)、8月3日・4日に「人エイクラ(アルギン酸ボール)をつくろう!」(岩川暢澄教諭)の3講座が実施されました。科学的な視点や発想力・知識を広げる内容で、参加した子どもたちにとっては夏休みの思い出として貴重な体験となりました。

今回講師を担当された3名の先生方のコメントを以下に掲載します。

*** 中川教諭コメント ***

講座名

「英語でオリジナルボードゲームを作ろう!」

コラボ世界史と一緒に担当しているロッッシュ先生と実施した初の小学生向け講座でした。歴史上の有名な人について調べ、その人物を英語で紹介する準備をし、すごろくをするという内容です。「歴史上の有名な人」に、ペリーを想定した教師、大谷選手を提案したTAの生徒たち(2校)と異なり、小学生たちはマララ・ユスフザイ氏・ナイティンゲール・アインシュタインと多種多様。教える側も教わる側も楽しく英語すごろくをすることができました。

*** 水上教諭コメント ***

講座名

「立体地図をつくってみよう」

身近にあるプラスチックの弁当バックを使って富士山の立体地図を作成する本講座は、「子どもアカデミア」としては2回目となります。中高生でも難しく感じる等高線の読み取りですが、地図を立て体感することで理解しやすくなります。講座の最後には富士山の風景写真を提示し、「この写真はどこから撮影したものか」という問いを設けました。どの参加者も立体地図の向きを変えながら思考力をフル活用していました。

*** 岩川教諭コメント ***

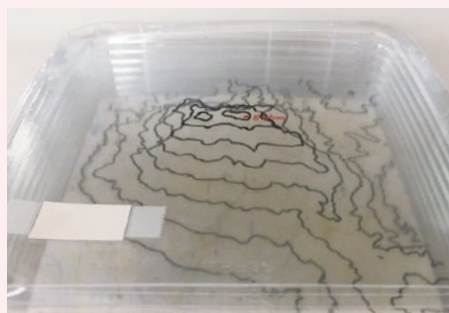
講座名

「人エイクラ(アルギン酸ボール)をつくろう!」

この実験は海草のネバネバ成分であるアルギン酸ナトリウムと除湿剤や溶雪剤として使われる塩化カルシウムを用いて、イクラのようなアルギン酸カルシウムカプセルを作る有名なものです。それをただ行うだけではなく、科学の面白さや思考がどんなものであるかを講座に組み込み続けて今年で7回目となりました。今年は卒業生や在校生がアシスタントとして参加をしてくれて大変充実したものとなりました。参加した子ども達の評価も今年は全員満点で、とても嬉しく思います。



英語のオリジナルすごろく



立体地図の完成イメージ



人エイクラ作りを体験する参加者

ひたむき・まえむき・おもむき
tomoちゃん

第90回

画:美術部(高校)M.R.

